

# 東南ア合材事業拡大 インドネシア企業と合弁 NIPPO

NIPPOが東南アジアでアスファルト合材事業を拡大する。6月にインドネシアで現地企業と合材の製造・販売を行う合弁会社を設立。需要拡大が見込めるベトナムでも道路舗装会社に出資する予定だ。タイで維持管理を見据えた再生アスファルト合材の製造に取り組むなど、東南アジアの事業を海外展開の柱にしていく方針だ。

インドネシアに設立したのは「KADI INDO NESIA MANUFACTUR (KIM)」出資比率はNIPPOが51%、現地企業のKADI INTERNATIONAL (KADI)、ジャカルタ特別州)が49%。合材の製品販売だけでなく、2社共同で舗装リサイクル技術の普及にも取り組む。

NIPPOは自動車メーカーのテストコースや政府開発援助(ODA)を中心に海外事業を展開してきた。ここ数年は合材事業にも注力し、タイとミャンマーに進出している。アスファルト舗装の普及が広がるタイでは、維持・管理も視野に入れ同国運輸省と再生アスファルト合材の実証試験に取り組んできた。

2017年にはタイの道路舗装会社「SECO TRANSPORT (SECO、スパンブリー県)」に資

本参加。18年にバンコク近郊(ノンタブリー県)で再生設備付きのアスファルト合材工場を稼働させた。NIPPOはSECOの設備で検証を重ね、再生アスファルト合材の品質確保にめどが立ったため、同社以外の道路舗装会社とも関係を深めていく考えだ。



西ジャワ州のKIMカラワン合材工場(NIPPO提供)



NIPPOは、東南アジアでのアスファルト合材事業を

# 東南アで合材事業加速

## 合弁設立など海外の柱に

NIPPO

加速させ、同事業を今後の海外事業の柱に育てる。6月にインドネシアでアスファルト合材の製造・販売を目的とした合弁会社「KADI IN DONESIA MANUFACTUR (KIM)」を設立したほか、タイやベトナムで合材事業の拡大に取り組んでいる。

インドネシアの合弁会社は、NIPPOが51%、同国の舗装会社「KADI INTERNATIONAL (KADI)」(ジャカルタ特別州)が49%を出資している。また、NIPPOは、再生アスファルト合材の技術を移転し、KADI社と共同で、同国での舗装リサイクル技術の普及を進める。

NIPPOの海外事業はこれまで、自動車メーカーのテストコースや政府開発援助(ODA)の工事を中心であった。近年は合材事業にも注力し、タイとミャンマーでは事業化している。なかでもタイではアスファルト舗装の普及が進み、今後は維持・管理も重要となるため、NIPPOは2016年からタイ運輸省と共同で再生アスファルト合材の実証試験に取り組んできた。

17年には、タイ国内で再生アスファルト合材を製造するため、同国の舗装会社「SECO TRANSPORT」(スパンブリー県)に資本参加。翌年に、再生設備付きのアスファルト合材工場をバンコク近郊(ノンタブリー県)で稼働させている。写真。同国での再生アスファルト合材の品質確保にめどが立ったことから、同国の他の舗装会社とも関係を深めるほか、ベトナムでも舗装会社への出資を予定している。